様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０３１３５

研究課題名（和文）ユダヤ人難民は上海でいかにして第2次世界大戦を生き抜いたか

研究課題名（英文）Research on the crisis management of Jewish refugees in Shanghai

研究代表者
阿部　吉雄（ABE, Yoshio）

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号：７０２３１９７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　800,000円

研究成果の概要（和文）：第2次世界大戦を含む1938～1949年の10年余りの間、中国の上海に中欧系・東欧系ユダヤ人難民のコミュニティが存在した。彼らはナチスドイツの迫害やドイツ軍の侵攻に追われ、当時入国ビザが不要だった上海租界に逃れた約1万7000人のユダヤ人だった。本研究では気候、言語、文化、習慣、社会制度などが故郷のヨーロッパと大きく異なる上海において、ユダヤ人難民たちがコミュニティとして危機管理に取り組んだ活動を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
１）ヨーロッパからの海路による脱出、２）難民コミュニティを襲った猩紅熱の流行、３）太平洋戦争と無国籍避難民指定地域設置により困窮した1943年～1944年に発生した火事の被災者たちへの支援、４）同時期に実施された冬期貧民救済事業、５）アメリカ軍による難民指定地域の誤爆におけるコミュニティの対応、６）共同研究「災害・戦争を契機とした専門家の関与と被災者に関する研究」の枠内で、上海やハルビンのユダヤ人難民への日本の対応を委ねられた専門家たちについて研究した。
本研究により、上海のユダヤ人難民コミュニティが自治組織として様々な危機に対応し、その経験により対応能力を高めて行ったことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：From 1938 to 1949 for more than ten years that include World War II existed in Shanghai in China a community of Jewish refugees from Central Europe and East Europe. They were about 17,000 Jews, who escaped the persecution by Nazi Germany against Jews or the invasion of the German armies and took refuge in Shanghai Settlement that did not demand for any entry visas in those days. Jewish refugees struggled to rebuild their life in Shanghai where climate, language, culture, custom and social system are quite different from their homes in Europe. This Research clarifies their activities for crisis management as community.

研究分野：東アジア史

キーワード：ユダヤ人難民　上海

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)　上海のユダヤ人難民社会に関する研究は 1960 年代の Herman Dicker による紹介から始まり、1970 年代の David Kranzler の多面的な記述によりその基礎が構築された。上海移住から 50 年が過ぎた 1990 年以降、Ernest Heppner を始めとするかつての難民のメモワールやインタビュー集が出版されるようになり、1990 年代半ばからはそれらを参照した研究も Marcia Ristano や James Ross らにより開始された。2000 年頃からはアメリカやドイツに保存されている公文書の発掘と、それに基づく実証的な研究が Astrid Freyeisen や Christiane Hoss らによって始められた。2005 年に発表された丸山直起の『太平洋戦争と上海のユダヤ難民』は、上海にユダヤ人難民社会が生まれるに至った政治状況を解明した優れた国際関係史的研究である。

(2)　ユダヤ人難民たちは上海で 10 紙以上の新聞を発行したが、それらは徐々に一般研究者も利用可能になっている。しかしユダヤ人への迫害（ホロコースト、ディアスポラ）という観点からの研究においては、ユダヤ人難民たちが経験した苦難や災害を対象にする場合も難民個々人の視点が不足する嫌いがあった。

２．研究の目的

(1)　上海のユダヤ人難民たちが経験した苦難はナチス・ドイツ（とその同盟国の日本）による迫害の結果という単純な見方を脱し、上海の当時の衛生状態や戦時中の経済状況、戦況の悪化による影響を難民たち自身および難民コミュニティの視点から捉え、彼らの反応や対策を明らかにする。

(2)　上海のユダヤ人難民たちと共通の環境に置かれた中国人住民との関係や、現在の難民問題や被災者支援との共通性から上海のユダヤ人難民コミュニティの活動を理解する。

３．研究の方法

(1)　上海への移住から第 2 次世界大戦・太平洋戦争の開始および終戦までにユダヤ人難民が経験した苦難や災害に関して、先行研究および難民たちが上海で発行した新聞数紙の記事や広告と難民たちのメモワールを詳細に調査し、その記述を丹念に突き合わすことにより、難民たちが直面した事態と難民たちがコミュニティとして行った対策を客観的に明らかにした。

(2)　上海のユダヤ人難民に関する 5000 人～1 万 2000 人規模のリストを活用し、(1)で明らかにした事象に関与した個々の難民たちの年齢、職業、住所、家族関係から、難民たちが経験した苦難や災害等をより正確に理解した。（例えばアメリカ軍による爆撃の被害者の住所から、爆弾の落下地点を推測できた。）

４．研究成果

平成 29 年度はユダヤ人難民の上海移住開始から第 2 次世界大戦開戦を経て太平洋戦争開戦にいたる時期について研究した。

(1)　論文「資料調査：上海のユダヤ人難民における猩紅熱の流行」

ユダヤ人難民の大量流入が始まって約半年後の 1939 年 5 月に難民社会に流行した猩紅熱に関して、難民たちが発行した新聞数紙の記事を中心に調査した。その結果、貧しいユダヤ人難民たちが収容されたハイムと呼ばれる集団宿泊所の密集した生活環境ゆえに感染症が急速に広まったこと、ハイム居住者たちの栄養状態が不十分で、体力や抵抗力が落ちていたことも猩紅熱流行の一因と考えられることを論証した。またこの事態に対し難民支援委員会 CFA（Committee for the Assistance of European Jewish Refugees in Shanghai）が行った隔離病棟の設置や予防接種の実施の効果を当時の医療記録から明らかにした。

(2)　論文「資料調査：ユダヤ人難民の船舶による上海渡航」

上海のユダヤ人難民研究においてこれまで前史的・周縁的なエピソードとして扱われてきた上海への渡航を調査した。ヨーロッパから上海へ向かう船舶の到着予定を伝える 1939 年 5 月 16 日と 1939 年 6 月 1 日の難民新聞の記事を比較し、この時期に上海へ向かう船舶が通常の 3～4 倍に増加したことを確認した。当時の難民のインタビューやメモワールから、それらの船舶の中には定員以上の乗客を載せ、その大部分はユダヤ人だったことも明らかになった。またこれまでユダヤ人はドイツを出国する際 10 ライヒスマルクしか持ち出せなかったとされていたが、船内でのみ使用可能なクーポンがあったこと、逮捕される危険を冒して貴金属を手荷物で、また価値ある所持品を正式に引越し貨物として運んだユダヤ人もいて、それが上海における難民間の貧富の差をもたらしたことも証明した。

平成 30 年度はユダヤ人の上海移住において太平洋戦争期、特に無国籍避難民（ユダヤ人難民）の居住と営業が虹口・揚樹浦の約 2.5 平方キロメートルの「指定地域」に制限されたゲットー期（1943 年 5 月～1945 年 8 月）について研究した。

(3)　論文「資料調査：上海のユダヤ人難民における冬期貧民救済事業（1943～1944 年）」
ユダヤ人難民は上海方面大日本陸軍最高指揮官および同海軍最高指揮官連名のゲットー設置の布告により生活上大きな制限を受けていた。その上に、太平洋戦争による物資不足とインフレが加わり、難民の中の最も貧しい人々は上海の厳しい冬を前に悲惨な状況に置かれていた。同胞の彼らに衣服、靴、暖房用燃料を与えて冬を乗り切らせるために、上海ユダヤ教区とキッチン・ファンドが共同で行った募金活動に関して調査した。その結果、比較的恵まれた難民たちだけでなく、底辺の人々も寄付をしたこと、芸術家やスポーツ選手も協力したこと、不用品の衣類を回収修理して支給したことを明らかにした。また 3 回行われた路上募金は大変盛り上がり、移住時以来希求されていたユダヤ人難民社会の連帯が初めて大きな規模で実現したことを確認した。

(4)　論文「資料調査：上海ユダヤ人ゲットーでの 1944 年 3 月 14 日の火災」
上海のユダヤ人難民研究においてこれまで報告されていなかったゲットー内の火災を調査した。ユダヤ人難民と中国人住民が居住する 343 Ward Road 里弄で起きた火災の被災者への難民コミュニティによる募金活動が冬期貧民救済事業以上の協力を集め、難民社会の連帯感が確実に定着したことを証明した。火災の際の難民消防団や自警団の活動も明らかにした。

研究の最終年度（令和元年度）においては、１）終戦直前のアメリカ軍による難民指定地域の誤爆におけるコミュニティの対応について、２）「災害・戦争を契機とした専門家の関与と被災者に関する研究」という共同研究の枠内で、上海やハルビンのユダヤ人難民への日本の対応を委ねられた専門家たちについて研究した。

(5)　論文「資料調査：上海の無国籍避難民指定地域への爆撃」
アメリカ軍によるユダヤ人難民居住地域への 1945 年 7 月 17 日の誤爆はユダヤ人難民たちにとって大きなショックを与え、彼らは爆撃が日本の無線局や弾薬庫を狙ったものだったと考えたが、実際は曇天による誤爆だった。難民が発行した新聞の記事や広告を分析し、爆撃による死者は先行研究における 31 名より多い可能性が明らかになった。爆撃の被災者たちへのコミュニティによる迅速で適切な支援は 1944 年 3 月 14 日の火災の経験が生かされた。また、ユダヤ人難民医師たちによる中国人被災者たちへの治療はユダヤ人難民と中国人住民との関係改善をもたらした。

(6)　口頭発表「日本のユダヤ専門家による対ユダヤ工作」
日本人のユダヤ受容、ユダヤ理解を代表する海軍の犬塚惟重大佐は上海で、陸軍の安江仙弘大佐はハルビンで現実のユダヤ人コミュニティに対応することになる。彼らは日米、日独、日中関係の中で日本の利益のために、そして部分的にはユダヤ人への共感から働いた。ハルビンおよび上海在住のユダヤ人たちも自らの生存と同胞愛のために日本と協力した。

研究期間全体を通じて実施した研究により、上海のユダヤ人難民コミュニティは自治組織として様々な危機に対応し、それらの経験により対応能力を高めて行ったことが明らかになった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 阿部吉雄	４．巻 54
２．論文標題 資料調査：上海のユダヤ人難民社会における冬期貧民救済事業（1943～1944年）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 言語科学	６．最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 阿部吉雄	４．巻 42
２．論文標題 資料調査：上海ユダヤ人ゲットーでの1944年3月14日の火災	５．発行年 2019年
３．雑誌名 言語文化論究	６．最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 阿部吉雄	４．巻 39
２．論文標題 資料調査：上海のユダヤ人難民における猩紅熱の流行	５．発行年 2017年
３．雑誌名 言語文化論究	６．最初と最後の頁 59-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/1832797/p059.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 阿部吉雄	４．巻 53
２．論文標題 資料調査：ユダヤ人難民の船舶による上海渡航	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語科学	６．最初と最後の頁 99-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 阿部吉雄	４．巻 44
２．論文標題 資料調査：上海の無国籍避難民指定地域への爆撃	５．発行年 2020年
３．雑誌名 言語文化論究	６．最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 阿部吉雄
２．発表標題 日本のユダヤ専門家による対ユダヤ工作
３．学会等名 ショック・ドクトリン研究会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考